専門研修プログラム名	北辰病院精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人秀峰会　北辰病院	
プログラム統括責任者	小西　俊一郎	

専門研修プログラムの概要	基幹病院である医療法人秀峰会北辰病院は埼玉県越谷市にある民間精神科病院238床（精神科救急・急性期病床102床、精神科急性期病床60床、精神科療養病床76床）である。埼玉県内では2番目に精神科救急の認可を受け24時間365日の精神科医療を展開している。年間1200名の入院患者、措置入院は年間100名を受け入れている。また、平成29年度から埼玉県精神合併症患者連携事業を受諾し、一般身体科と精神科医療機関との連携強化を進めている。統合失調症圏、気分障害圏の疾患のみならず、認知症、依存症、摂食障害、パーソナリティ障害などあらゆる疾患に対する研修が可能である。様々な入院を要する病態の理解が可能であるとともに、適切な行動制限や管理度などのリスク管理を行う場面の研修も可能である。薬物療法（クロザピンも含む）、精神療法、認知行動療法、作業療法、mECTを適切に導入している。多面的に病状を評価し、環境調整を行いながら、早期の退院を目指せる治療を提供している。当プログラムでは救急から地域社会での生活のサポートまで、地域医療のあらゆる面での医療的要請に精神医療がどう応えていくかを、豊富な症例を通じて学び臨床実践的な内容のプログラムである。「今困っている人のために」を原点とし、絶対目標「思いやり」のプロフェッショナルを掲げ、精神科医としても人としても成長を目指す。精神科領域専門医制度における、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	1年目には、専攻医は基幹病院である北辰病院で研修する。入院患者の主治医となり、指導医の指導および看護師、心理士、精神保健福祉士らとチームを組み、身体合併症症例、難治例、急性期症例、認知症症例などの幅広い経験、m-ECTやクロザピン療法について経験できる。精神科医としての基礎的知識を身につける。検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。2年目および3年目には、連携病院で総合病院の中に精神科閉鎖病棟での科を横断してのチーム医療に加わる。こうした広い臨床実践の中で精神医療における専門医としてのあり方を学ぶとともに総合的に精神現象を捉える力を身につける。	
	修得すべき知識・技能・態度など	専攻医は精神科領域専門医制度の研修実績管理システムにしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法, 6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。なお、習得が難しい症例（児童・思春期症例、依存症症例）について、連携施設の４つの大学病院ではそれぞれ専門外来を設置されており多様な症例を透して、病態を理解し診断・治療・薬物療法・精神療法・心理社会的な介入を長期的な治療戦略として理解できるようになる。さらに適切な時期に適切な治療を導入できるスキルを習得することができる。それぞれの分野を専門領域としている研修指導医もおり、その指導のもと自立した診断・治療、多職種とカンファレンス討論、症例発表ができる。

専攻医の到達目標	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	精神科あるいは他科でのカンファレンスに出席し、患者・医師・看護師・家族などの関係について適切な精神医学的な助言を行い、問題解決に協力することができる。指導医とともにカンファレンスに参加し、経験を積む。
	学問的姿勢	臨床現場における日々の診療が最も大切な研修であり、専門研修指導医は専攻医が専門研修施設群内で十分な学習ができるよう指導するとともに、専攻医が主体的に研修に取り組む姿勢を涵養する。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	研修期間を通じて、1）患者関係の構築、2）チーム医療の実践、3）安全管理、4）症例プレゼンテーション技術、5）医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医療安全、感染、倫理の講習会に参加すること通じ、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、コンサルテーション・リエゾンといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。指導医をはじめ多くの先輩医師や他のスタッフとの協力関係により、医師としての責任や社会性、倫理観などについて学ぶ機会を得ることができる。さらに、コンサルテーション・リエゾンを通して身体科医師・スタッフとの連携をおこなったり、地域医療で他のスタッフとともに症例の検討を行うことにより、社会性を深めることができる。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	別紙の年間計画を参照。いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。
	研修施設群と研修プログラム	研修基幹施設と研修連携施設で構成した施設群で研修プログラムを効率よく実施し質の高い研修を行う。それぞれ診療内容、診療体制、施設の特徴を明示する。また、地域性への配慮も明示する。研修指導医がそれぞれの施設の特徴にふさわしい数と専門性を保持し、研修委員会を置き、きめ細かい運用をする。また、研究施設群で専攻医に関する情報を共有するため研修プログラム委員会を設置し、症例数を満たすように運営する。研修施設群の中で、情報交換や連携ができる範囲かつ地域医療を支えている施設を研修連携施設に含んだ施設群の中で、精神疾患においても、急性期、亜急性期、慢性期の病態を経験できるようプログラムを運営する。また、司法、教育、福祉など地域の特徴のある施設などの研修が求められる。
	地域医療について	研修施設群の中の地域中核病院において外来診療、夜間当直、救急対応などを通して地域医療の実情と求められている医療について学ぶ。訪問医療や社会復帰関連施設、地域活動支援センターなどの活動についてその役割と実情を学ぶ。精神保健の観点から疾病予防や地域精神科医療がもつ役割について学ぶ。関連する法律、制度について学習し、精神科専門研修等において関連法規による入院や通院の実際について学習する。
専門研修の評価	様々な専門の専門研修指導医が、“知識に関する評価”と“技能と態度(医師としての態度や社会性を含 む)に関する評価”を集団で行い、評価が偏らないようにする。	
修了判定	研修プログラム統括責任者は、研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終 的な研修修了判定を行う。	
	専門研修プログラム管理委員会の業務	各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

専門研修管理委員会	専攻医の就業環境	各施設の労務管理基準に準拠する。
	専門研修プログラムの改善	基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	理事長・副理事長・院長・副院長・診療部長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	研修の休止・中断、プログラムの移動については、本人の事情があり申し出があった場合、プログラム統括責任者と十分な相談を行って判断する。プログラム外研修は基本的に認めていないが、本人からの申し出があった場合、プログラム統括責任者と相談の上、判断する。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	各々の連携施設に対し、プログラム統括責任者および診療部長が必要に応じて、随時訪問調査を行う。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	所属機関：北辰病院　中村吉伸（理事長）、小西俊一郎（院長）、仲條龍太郎（副院長）、小堀聡久（診療部長兼医局長）、山尾あゆみ（診療課長）、中村保喜（副理事長）、石野裕理	
Subspecialty領域との連続性	本的には精神科専門研修を受け、精神科領域専門医となった者がその上に立って、より高度の専門性を獲得することを目指すものとする。今後はサブスペシャリティー学会と連携し、精神科専門研修の中で、専攻委が興味をもった分野を経験し、深めていくことを推奨する。	